



第101号 ～礼儀と節度を考える～

平成武師道

(人間活動学)

『油断』

今回のテーマは、「油断」である。

油を断つと書いて油断。

昔も今も油は、生活にとっても大事なもの。

油を断つと生活が大変である。



また、武士の命である刀も、油での手入れを怠ると、いざと言う時に錆びて使い物にならない。

だから油断をするとは、大事なものを煮くしたり、忘れてしまう事と言えるのではないだろうか。

普段の生活では、道で躓いたり、料理中に包丁で手を切ったりする。

その時に、「気を抜いているから、油断したら危ない」と言われる。

簡単な話、注意散漫で集中力が落ちているのである。

大事な物事に取り組んだり、挑戦する時には、気を抜かず、集中して取り組み、油断をしない事に気を使う事だろう。

しかし、何時も気を張っていれる訳ではない。

どうしても気を抜いたり、リラックスをする事も大事である。

一番大事なものは、慢心しない事だ。

世の中、「当たり前」と思っていてはいけなく、「絶対」などあり得ない。

先の事、何が起こるのかは、誰も分からない。

「男は数居を跨げば七人の敵あり」という諺もあるように、何かに取り組む時は、気を抜かず、全力で挑む事を忘れてはいけなく。

いつでも命の生き死にがある時代ではない平和な良い時代になった。

しかし、それだからこそ平和ボケになり、いつの間にか気を抜き、落とし穴に陥ってしまう。

この「油断」は、厄介で、いつでも簡単に人の心に忍び込んでくるものだ。

この文章が掲載されている平成武師道通信も101号。これからも気を抜かず、多くの事を学び、経験し、形に残していく努力を怠れない為にも、今回は「油断」をテーマにした次第である。